

# 1 2月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

2年12月のD I値は8指標中、5指標が上昇。特に先月、大きく下落となった「売上高」においては2桁の大幅な上昇。「販売価格」は下落、残り2指標については横這いとなった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

建設業関連では需要が堅調であり、自動車販売整備業においても引き続き前年度比プラスとなり、需要が好調であった様子。またエアコン・テレビなどの買換や家庭用食品が巣ごもり需要により堅調。加えて、貨物運送業からは荷動きが回復傾向にあるなどの明るい報告も寄せられた。

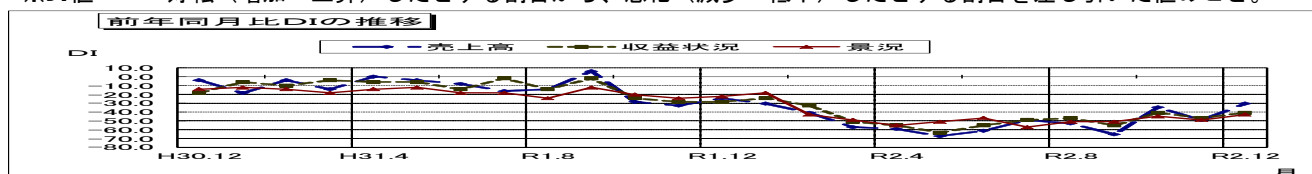
一方、高齢化や人材不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高や燃料価格の値上がりも続いている。加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により年末需要も伸び悩み、厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

	R1 12月	R2 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比 増減
景況	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	-51.0	-44.9	-49.0	-42.9	6.1
売上高	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-65.3	-34.7	-49.0	-30.6	18.4
収益状況	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	-55.1	-40.8	-46.9	-40.8	6.1
販売価格	10.2	12.2	8.2	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-10.2	-8.2	-2.0	-6.1	-4.1
取引条件	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	-12.2	-18.4	-16.3	-12.2	4.1
資金繰り	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	-24.5	-18.4	-24.5	-24.5	0.0
設備操業度	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	-18.4	-14.3	-16.3	-14.3	2.0
雇用人員	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-8.2	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は91.7%出荷量は99.2%となった。先月比でみその生産量は低下、出荷量は増加した。主要原材料のうち国産加工用米価格は高止まり、輸入米価格は下降した。傾向として新型コロナウイルス感染症の影響による巣ごもり需要で味噌は堅調である。一方、業務用の飲食向けおよび観光土産品関連は消費が戻らず厳しい状況が続いている。
2. 漬物・漬物製造業ではコロナの影響で先行きが全く見通せない。全体的に売り上げの減少、作業時間の短縮がみられる。農家については概ね前年と変わらない。

#### <繊維・同製品>

3. 縫製・新型コロナウイルスの影響と断定できないまでも、製造業の景気悪化が徐々に現れると予測しているものの、相変わらず今後の景気予測がしづらい状態である。しかし景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業体力堅めに注力している。生産については、従前と同じく来期に向けての製品備蓄を開始し、来年初めまで在庫増となる。

#### <木材・木製品>

4. 製材・業界全体としてはこれまでと同様に売り上げが減少傾向にあるが、事業者間で好不調の差が大きく見られる。
5. 製材・引き合いが弱く、工場稼働は先月に続き低調である。
6. 木材・原木丸太の入荷が減少。1月に入り積雪があり、山からの丸太がかなり減り製材所に供給できるか不安。今後、入荷を期待したい。
7. 木材・新型コロナウイルス感染症による全国的第3波の猛威により医療崩壊が真直下に感じる現在、景気回復の兆しは皆無のように思われる。とにかくワクチン接種が始まらないと、どんな景気回復の好材料も水泡に帰してしまうような状態だ。

## <印 刷>

8. 印 刷・今年は今年末年始の休みを前に特需を期待したいところだった。12月は「ボーナス需要」「お歳暮」「年越し」「クリスマス」等のイベントあるがこのコロナ禍では盛り上がりえないところである。ワクチン完成で希望が見えたと思ったら、感染力1.7倍の変異種がイギリスで発見されるなど不安をあおるニュースが報道され、まだまだ、予断を許さない状況が続くそう。それでも、私たちはアフターコロナ、ウイズコロナ時代のニューノーマルについて準備をしていかなければならない。
9. 印 刷・12月は1年の中でも受注量の多い月ではあったが、コロナの影響もあり期待していた数字をあげられた企業は少なかったようだ。1月は例年、稼働日数が少なくお客様の動きも鈍いため、多くを望めない月ではあったが、ここに来ての全国的なコロナ感染拡大を受けてより一層厳しい月になりそうである。このまま感染拡大が続いて昨年の4月、5月みたいな状態にならないこと願うばかりである。

## <窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・12月は昨年同月と比較して約14%減少。先月同様昨年のこの時期トンネルの舗装用コンクリートのまとまった打設があり出荷量が増えていたが、今年度も一時的に建築・土木工事の打設が重なり出荷量がある程度まとまった感があるが、全体的には出荷量は昨年度を15%程度下回りそうな状況である。また今後コロナウィルス感染拡大の影響が少なからず業界に影響を及ぼしてくるのでは（次年度以降の建設予算等）と戦々恐々である。
11. 生 コ ン・12月の出荷数量は、対前年同月比7%増であった。要因としては出荷数量が前年同時期と比較して、主に民間工事での王子製紙バイオマス工事等大口工事の発注による。先行面での見通しは、四国横断自動車道（阿南～徳島東）の整備工事などあるが、今後の新規工事の動向が鍵となる。懸念事項としては、依然として運転手の高齢化と若年層の人材不足が深刻な問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。

## <鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・全体として、業況は弱含み状況ではあるが、設備操業度は回復基調にあることがうかがえる。なお、一部においては、引き続き厳しい状況も続いているところである。新型コロナウイルス感染の終息が見えない中、依然として景気の先行き不透明感は拭えず、今後の持ち直しが期待される。

13. ステンレス・国内の状況については、動きは鈍い中でも回復の兆しはあったが、国内での感染拡大を受けて先行き不透明感が強くなってきつつある。海外での営業活動についても、ワクチン接種の開始等明るいニュースはあるものの、感染拡大の歯止めは掛かっておらず、コロナ禍以前と同様までの回復はまだまだ見通しが立たない状況にある。引き続き感染予防対策を継続しながら、企業活動を展開している。

<一般機器>

14. 機械金属・新型コロナウイルスの感染状況は、第3波と言われるほど、全国的にその影響が急増してきており、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに、引き続き厳しい状況が多く見られ、景況感の悪化が懸念される。加えて、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、直面する経営上の課題として見受けられ、依然として先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。

【非製造業】

<小売業>

15. 各種商品卸・コロナウイルス感染症による需要減退感が強い。

16. 食糧卸・業務用商品の消費量が益々減少。

<小売業>

17. ショッピングセンター・12/4に新店がオープンし、館全体では売上の前年対比は121.6%、客数は109.8%だった(新店含む)。今後、連絡票はこの新店を除いた従来と同じ店舗での報告を行ないます。ということで、12月の売上高の前年対比は全店計102.3%(既存店104.4%)、客数99.9%(既存店102.7%)だ。オープン3日間だけだと既存店134.8%だったが、最終的に104.4%に落ち着いた。新店が既存店の売上を底上げしたのは事実だが、この状態を持続させねばならない。一昨年3月に150坪のドラッグストアがオープンした折も既存店の売上は「竜頭蛇尾」だった。新店の集客力に頼らず、売上の維持及び増加の対策が重要だ。

18. 畳小売業・12月も好天に恵まれたが、一般家庭の仕事は少なかった。ハウスメーカーの新築引き渡しも20日頃にはほぼ終わり、あとは来年。営業用(ホテル、飲食関係)はほんとうに少なかった。

19. 電気機器・引き続き、買換需要もあり大きな変動はなく、今後の社会情勢に注意が必要。(新型コロナウイルス感染拡大状況によるイベント等中止や延期)

<商店街>

20. 徳島市・例年の年末と比べ人の流れがなく、各店とも売上げは減少していた。

21. 徳島市・寒くなりコロナが一層増え、旅行の機会も減ったのでクリスマスセール前の駆け込み需要も見受けられず、依然として厳しい状態は続いている。

## <サービス業>

22. 土木建築業・徳島河川国道事務所の令和2年度の去年との比較について、12月の動向は先月と大きな変化ない。工務課は新直轄工事は一部供用に向けて忙しく工事を進めている。牟岐バイパス・南環状線道路・桑野道路の事業は去年と同程度の工事量と思われる。道路管理課は「先月と同様」橋梁補修等が去年より多く発注され、当該業務は忙しくしている。維持管理費は去年同様（清掃・除草・街路樹等）トンネル補修、橋梁補修・橋梁耐震補強は去年の数倍の予算がついている。交通対策課は「先月と同様」共同溝の整備事業が多く予定されているのでそれなりに忙しい。共同溝（無電柱化）は去年の3倍弱の予算がついている。国土強靱化で工務課の工事量は増える見込み。同様に道路管理課・交通対策課でも工事量は増えると思われる。来年度の資料作成業務委託の配置人員が3課12名から15名に増員された。R3年度業務の公告が発表された。（当組合が受諾している業務）
23. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比16.1%の1,376台、中古車は4.3%の436台、合計では13.0%の1,812台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比16.4%の1,067台、中古車-3.4%の366台、合計は10.6%の1,433台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比11.9%の3,245台と増加。車両販売台数においては、トータルで対前年度比11.9%の増加。軽自動車の中古車が3.4%減となった以外は、すべて前年度比はプラスという結果となった。新車の販売台数は登録車・軽自動車ともに16%以上の増加。新型コロナウイルスの収束は未だめどが立たないが、これから入る繁忙期に期待したい。収益情報の目安となる継続検査の台数は、登録車は9.6%増、軽自動車は1.9%減という結果。対前年度比で見ると大きな落ち込みはないが、収益の大幅改善には至らない状況である。
24. 旅行業・12月は、またコロナ感染者数が増えてきていることや、GOTOの延期などでますます旅行業界にとっては厳しい状況になっていると思われる。
25. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R2年・796円）。このような急激な最低賃金の引き上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が長期に及んでいるホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などについて影響があり、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきている。直近の具体的状況としては、11月から政府主導のGOTO等により回復の兆しもあったが、12月後半からのGOTO等の中止により客室等の稼働が大きく減少するなど、ホテル関連メンテナンス業者にとってコロナ禍の影響は政府の対策にも大きく左右され、今後予断を許さない状況が続くものと思われる。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、12月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型感染症の著しい感染拡大に伴う全国の状況を見ると、今後、多様で深刻な影響が現れてくることが眼前に想定され、これを念頭に事業活動に当たっているところだ。

## <建設業>

26. 建設業・政府は防災・減災のための国土強靱化対策として今後5年間で15兆円程度の事業費の確保されました。初年度となる令和3年度の財源は2020年度の第3次補正予算案にも盛り込まれており、令和3年度の本予算と合わせておよそ4.4兆円の事業が計画された。徳島県でも第3次補正予算において、公共事業費が多く計上される見込みである。
27. 電気工事業・新設住宅口数は110件であり、対前年比62.8%と減少した。
28. 板金工事業・板金業界は忙しくなっている。年末年始も良好状態だ。ただし、あくまでコロナ禍の中の状況だ。

## <運輸業>

29. 貨物運送業・新型コロナの影響は大きく、組合員（運送業）は例年ならば繁忙期なのに営業日数も年末には数日早く終わるところもあり、低調に推移した。また軽油単価は海外市況を受け前月平均比で約4円強の値上りとなり、収益低下のダブルパンチ状況となっている。
30. 貨物運送業・12月に入り軽油価格が値上がりが続けていて5週連続して値上がった。1月に入ってもまだ値上がりの傾向にある。運送業界全体では荷動きはコロナ禍前までにはなんとか戻りつつあるもののコロナ次第では依然として先行き不透明な非常に厳しい状況が続くものと思われる。